

砺波市「ゼロカーボンシティ」宣言

本市には庄川を流れる豊かな水、その清流に育まれた肥沃な平野、そこに家屋が点在する「散居」景観、伝統的家屋を囲うようにあるカイニョ（屋敷林）といった、花や緑に囲まれた自然豊かな環境があります。これらは長い歴史の中で先人たちがこの砺波の地で、四季折々の自然に寄り添い地域の風土を守りながら暮らしの知恵によって自ら循環型社会を形作ってきたことを示しています。

近年、地球温暖化が要因とみられる猛暑や集中豪雨等による甚大な被害が発生しており、日本政府は2020年10月に「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、社会全体で脱炭素社会を実現するための取組を行っています。

本市は「第2次砺波市環境基本計画」や「砺波市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」に基づき、市民、事業者及び行政が一体となって脱炭素の取組を展開し、庄川と散居が育む『砺波型サステナブル社会』を形成することで、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言します。

令和7年3月19日

砺波市長 夏野 修